



富山市教育センターだより

第45号

令和2年3月24日

富山市八人町5-17

TEL 076-431-4404

<http://www.tym.ed.jp/c10>

- 学校教育課発
- 学校保健課発
- 教育センター発
- 学校紹介

(題字「道」明瀬 正則)

弥生三月 別れの季節

富山市学校教育課 課長 大久保 秀俊

今年度も別れの季節がやってきました。この季節になると、A子を思い出します。

私は中学2年生になるA子の担任になりました。彼女は夏休みを境に、髪を染め、生活が乱れていきました。私は、「褒めて育てる」という教育の基本を頭の隅にもちつつも、他の生徒の手前、看過することはできず顔を合わせれば叱ってばかりで、彼女との距離は離れる一方でした。

翌年4月。期待に反して、私は再びA子の担任でした。案の定、修学旅行や体育大会等楽しいはずの行事でさえも、二人の仁義なき戦いは続きました。「A子さえこの学級にいなければ」と考えたこともしばしば。それでも月日は流れ、A子との別れの日が近づいてきました。

卒業式前日。A子の友達の多くが身なりを正し、担任とともに感慨深く予行に臨む一方で、A子は金髪に短スカ。私は他の生徒よりも彼女に時間をかけてきました。それなのに彼女もその親も私に対して感謝の言葉一つなく、暴言の連続です。私はついに堪忍袋の緒が切れ、彼女に「最後ぐらいしっかりやれ。最後ぐらい先生の言うこと聞け。お前のためだろう！」涙声で訴えます。対するA子は「これでもお前(先生)の言うこと、聞いてきたつもり。でももう無理。卒業式なんか絶対出んから!」。そばにあった植木鉢を私に投げつけ、廊下の非常ベルを押しつぶし、けたたましいサイレンが鳴り響く校舎を飛び出していきました。明日はめでたい卒業式。でも、私の心は最悪。日暮れを待って、管理職に命ぜられるまま、A子の家をただ訪問しました。

ドアホンを押すと予想に反してA子が顔を出しました。母親の勧めもあり、居間にあがり二人だけで向き合いました。互いの第一印象、A子が入院したときのこと、家族のこと、友達のこと、将来のこと、

ついでに仁義なき戦いのこと。私は2年間も担任をしながら、A子がしょっていた荷物を初めて知りました。そして自分がA子を直そう、治そうとしてばかりで肝心のA子という存在を受け入れようとしていなかったことに初めて気づきました。午後9時を過ぎたので私は腰を上げ、「明日、卒業式に来いよ。先生、心込めて名前呼ぶから」と声をかけると、無言のA子。未練たらしい担任は、財布からしわしわの千円札を取り出し、もう一言加えます。「気が向いたらでいいから、これで黒染めでも買ってくれ。ただし、たばこだけは買うなよ!」。

翌朝。こけしのようなA子とお母さんが現れました。卒業おめでとう。そして、ありがとう。

それから2か月後のある夜。職員室にひょっこり作業着姿のA子がやってきました。外仕事の道を選んだ彼女の髪はもちろん、顔も真っ黒です。「先生、今日生まれて初めて給料もろた。ほらっ」汗水流して稼いだ貴重な6万円ちょっとが入った給料袋の中からピンピンの千円札を1枚抜き取り、「先生、返すね」と私に差し出しました。私は彼女の頭をなでながら、「1か月、よう頑張った。でもこれは受け取れん。汗を流して稼いだ大事な千円だから」と返したところ、A子は当時のように怒った口調で、「だめだめ。この千円返さんかったら私、また弱くなってしまふ。これからもっと頑張っていかにゃならんから」。私はA子と『野口英世』の顔がにじんで見えなくなりました。彼女は私の自慢の生徒です。同時に私はA子から大事な大事なことを教わりました。

弥生三月は別れの季節。今年度は今までとは違った別れの日になるかもしれませんが、次の新たな出会いのためにも、卒業(園)式や修了式がいい日になることを祈っております。